

用語解説

ページ (初出)	用語	解説
1	ナショナル トラスト	自然環境や貴重な歴史的建造物を無秩序な都市化や野放図な開発から守り、後世に残していこうとする市民運動。市民の募金などにより土地を買い取ったり、寄付や遺贈を受けたり、契約を結ぶことによって、市民自らがその土地の所有者になり半永久的に保全する。日本では、鎌倉市の御谷において、住民らが乱開発から守るため募金活動により開発対象となっていた土地を購入したことが、ナショナルトラストの概念を取り入れた最初の例とされている。
1	シビック プライド	都市に対する市民の誇りを指す。単に地域に対する愛着を示すだけではなく、その都市の課題解決や、活性化等の具体的な行動に取り組む姿勢も含む。
5	SDGs	【SDGs（エスディーゼーズ）：Sustainable Development Goals】 2015年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標のことで、2030年を期限とする、先進国を含む国際社会全体の17の開発目標とそれを実現するための169のターゲットのこと。
6	ライフ スタイル	生活の様式、営み方。また、人生観、価値観、習慣などを含めた個人の生き方。
6	スマート シティ	ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）などの先端技術や、人の流れや消費動向、土地や施設の利用状況といったビッグデータを活用し、エネルギーや交通、行政サービスなどのインフラ（社会基盤）を効率的に管理、運用する都市の概念。環境に配慮しながら、住民にとって、よりよい暮らしの実現を図る。
6	リビングラボ	まちの主役である住民が主体となって、暮らしを豊かにするためのサービスやものをうみだし、より良いものにしていく活動。企業と住民が協力して新技術や価値を生む手法。
7	オープン スペース	公園・広場・河川・湖沼など、建物によって覆われていない土地の総称。公共空間だけではなく、民地内空地も含む。
7	イノベーション	物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」（を創造する行為）のこと。それまでのモノや仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れ、新たな価値を生み出すことで社会的に大きな変化を起こすことを指す。
7	ウォークブル	良好な歩行環境を有しているだけではなく、良好な地域コミュニティを形成し身体的にも精神的にも健康なライフスタイルを可能とするような歩く行為を促進する生活環境全般を含む概念。歩きやすい街路環境や、歩行を中心とした生活像・地域像を目指すことで、犯罪抑止の面で副次的な効果も期待される。
7	ヘルスケア・ ニューフロン ティア政策	未病の改善と最先端医療・最新技術の追求により超高齢社会を乗り越えることを目指す神奈川県政策。
8	ヘルスケア	ヘルスケアとは、自らの『生きる力』を引き上げ、病気や心身の不調からの『自由』を実現するために、各産業が横断的に支援し、新しい価値を創造すること、またはそのための諸活動をいう。
8	ウェルネス	健康を身体の側面だけでなくより広義に総合的に捉えた概念。深沢地区では、健康な心身を維持、増進させる生活行動、さらには、人々のクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を向上させる概念であると定義づけている。

ページ (初出)	用語	解説
14	エリア マネジメント	「エリアマネジメント推進マニュアル（国土交通省）」では、「地域における良好な環境や地域の価値を維持、向上させるための、住民や事業主、地権者等による主体的な取組」と定義されており、幅広い多様な主体が協働して「まちを育てること」を目的とし、快適で魅力的な環境の創出や美しい街並みの形成による資産価値の保全・増進等に加えて、ブランド力の形成や安全、安心な地域づくり、良好なコミュニティ形成、地域の伝統、文化の継承等、ソフトな領域のものも含む。（内閣官房 地域再生制度パンフレットより）
17	循環型社会	廃棄物等の発生抑制や循環資源の循環的な利用、適正な処分が確保されることによって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会。
18	グリーン インフラ	自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、地域課題に対応していくことを通して、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるもの。
18	タクティカル アーバニズム	「まずは市民の手で小さなアクションを起こし、長期的な変化やムーブメントにつなげよう」という、プロジェクトベースのまちづくりの考え方。
19	ユニバーサル デザイン	あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。
20	コミュニティ	共同の社会生活が営まれる一定の地域、または、その集団。都市計画の分野では、主として、住民相互の協力と連帯による地域のまちづくり事業や身近な生活環境施設の整備事業においてこの言葉を使用する。
20	レジリエント	一般用語としては、「困難などに負けない」「困難などに遭遇した時に回復・復元する」という意味をもち、防災分野や環境分野で想定外の事態に対し社会や組織が機能を速やかに回復する強靭さを意味する用語として使われるようになった概念。
20	スカイライン	山や建物などが空を区切って作る輪郭。
20	ヒューマン スケール	程良い人間的な尺度。人間の感覚や行動に適合した、適切な空間の規模やものの大きさのこと。
24	モビリティハブ	バス停留所、カーシェアリング、自転車シェアリング、電動キックボード等を備え、多様な移動サービスを提供する拠点のこと。
24	ラスト ワンマイル	最寄り駅やバス停と自宅あるいは目的地の間の短距離や特定の敷地内、区域内等比較的狭い範囲内の移動を指す。
24	パーソナル モビリティ	一人または二人乗りの小型の移動機器。自動車よりも小さく、小回りが利き、原動機を搭載する乗り物で、電動車いす、原動機付き自転車、立ち乗り型の移動支援機器なども含まれる。主に、都市部や観光地の短距離移動、または日常生活における身近な移動に利用するものを指す。
26	MaaS	【MaaS（マース）：Mobility as a Service】 地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせる検索、予約、決済等を一括で担うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。
27	トランジット モール	自動車の通行を制限することで歩行者と公共交通機関中心の道路とし、歩行の安全性の向上、にぎわいの創出、沿道商業地の魅力向上などを図る空間。
27	コミュニティ バス	これまでの路線バスでは運行できない地域で、地域の足となっている乗合型の地域公共交通や、地域住民の多様なニーズにきめ細かくに対応する地域密着型バスなどを指す。
31	レインガーデン	降雨時に雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地下へ浸透させる透水型の植栽スペースのこと。雨庭。

用語解説

ページ (初出)	用語	解説
31	バイオスウェル	浸透、流出抑制機能を担う雨水浸透型の緑地帯。緑溝。
32	ZEB	<p>【ZEB（ゼブ）：Net Zero Energy Building】</p> <p>建築構造や設備の省エネルギー、再生可能エネルギー・未利用エネルギーの活用、地域内でのエネルギーの面的（相互）利用の対策をうまく組み合わせることにより、エネルギーを自給自足し、化石燃料などから得られるエネルギー消費量がゼロ、あるいは、おおむねゼロ、となる建築物のこと。</p> <p>ZEBの実現・普及に向けて、4段階のZEB（『ZEB』、Nearly ZEB、ZEB Ready、ZEB Oriented）が定性的及び定量的に定義されている。</p> <p>【関連する用語】</p> <p>ZEB Ready：ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物を指す。</p>
32	ZEH	<p>【ZEH（ゼッチ）：Net Zero Energy House】</p> <p>外皮の断熱性能等を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅のこと。</p> <p>【関連する用語】</p> <p>ZEH-M：Net Zero Energy House Mansionの略。年間の一次消費エネルギー量の収支をプラスマイナス「ゼロ」（もしくはゼロに近づける）にする共同住宅を指す。</p>
32	パッシブデザイン	建物を取り巻く自然環境の特性を活かし、快適な室内環境をつくり出すことを目指す設計手法。
32	アクティブデザイン	冷暖房設備や給湯器、照明器具などを効率的に組み合わせることにより、快適な室内環境をつくり出すことを目指す設計手法。パッシブデザインの反対語。
32	エネルギーマネジメント	会社の事務所やビル、工場、住宅、地域などのエネルギー使用を見える化し、効率的に使用するための企業や個人、地域の活動を指す。
33	微気候	地面近くの気層の気候。地表面の状態や植物群落などの影響を受けて、細かい気象の差が生じる。
35	ポケットパーク	ポケットのように小さい規模の広場のこと。
44	サードプレイス	アメリカの社会学者レイ・オルデンバーグ提唱の概念。著書『The Great Good Place』において、「家庭や職場での役割から解放され、一個人としてくつろげる場」としてサードプレイスを位置づけた。
46	デマンドバス	自宅または停留所などからの電話での要請に対応する形で到着時刻を利用者に知らせ、指示された経路に従い運行し、乗客を集め、目的地まで運行する要請対応型の運行バスのこと。
68	ファニチャ	ストリートファニチャともいう。街頭を彩る家具という意味で、バスの停留所、公衆電話ボックスなどの小建築物やベンチ、街路灯、ごみ箱などが含まれる。

ページ (初出)	用語	解説
74	CPTED (防犯環境設計)	【CPTED (セブテッド) : Crime Prevention Through Environmental Design】 犯罪が発生しにくい環境を創るために、人的な防犯活動(ソフト面)とあわせて、建物、道路、公園等の物理的な環境(ハード面)を整備、強化し、犯罪の起きにくい環境を形成するという考え方をいう。
85	カーボン ニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。カーボンニュートラルの達成のためには、温室効果ガスの排出量の削減、吸収作用の保全や強化をする必要がある。
86	プラスチック 地捨地消	地域で捨てられるはずのプラスチックに再度価値を与え、可能な限り地域内で長く循環的に使用するという概念。「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指してゴミの減量や資源化に取り組む鎌倉市において、産学官の共創のプラスチック地捨地消の達成が目指されている。
87	LEED	【LEED (リード) : Leadership in Energy and Environmental Design】 非営利団体USGBC*が開発、運用し、GBCI**が認証を審査しているビルト・エンバイロメント(建築や都市の環境)の環境性能評価システム。コストや資源の削減を進めながら、人々の健康に良い影響を与え得ることに配慮し、また、再生可能なクリーンエネルギーを促進している建築物が認証されている。 (USGBC*: U.S. Green Building Council, GBCI**: Green Business Certification Inc.)
90	景観重要 公共施設	景観計画区域における良好な景観の形成に重要な公共施設(道路、河川、都市公園等)のこと。
95	ファサード	建築物の正面のこと。デザインなどにおいて重要な面を有しているものであれば、側面や背面にかかわらずファサードと呼ぶ場合もある。
95	ディテール	建築物やインテリアにおける、小さな部分、細かな部分のこと。
98	ブラケット照明	壁面、柱などに取付ける照明器具。
121	PPP (官民連携)	【PPP (ピーピーピー) : Public Private Partnership】 公共施設等の建設、維持管理、運営等において行政と民間が連携して、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図ること。指定管理者制度や包括的民間委託、PFI (Private Finance Initiative) など、様々な方式がある。地域の様々な状況、課題に対応するため、各地域の実情にあわせた様々な官民連携事業が全国で検討、実施されている。
125	ビッグデータ	膨大かつ多様で複雑なデータのこと。スマートフォンを通じて個人が発する情報、カーナビゲーションシステムの走行記録など、日々生成されるデータの集合を指し、単に膨大だけでなく、非定形でリアルタイムに増加・変化するという特徴がある。
127	BID (ビジネス 活性化地区)	【BID (ビーアイディー) : Business Improvement District】 民間のエリアマネジメント活動の資金を自治体が再配分し、公共空間の管理も含めて一体的にまちづくりを推進する制度のこと。
127	メタバース	インターネット上の仮想空間にアバター(自分の分身であるデジタルキャラクター)で参加し、他者とコミュニケーションすることなどを指す。統一された定義はないが、広義ではある程度多くの人々が活動できるオンラインデジタル空間のことを指す場合もある。
128	シンクタンク	諸分野に関する政策立案・政策提言を主たる業務とする研究機関のこと。

鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン 策定委員会について (令和2～4年度)

鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会 委員名簿 (敬称略)

令和2～4年度 鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会 委員名簿

氏名		所属
大木 聖子	【学識経験者】	慶應義塾大学 環境情報学部政策・メディア研究科 准教授
中村 英夫 (委員長)	【学識経験者】	日本大学 理工学部土木工学科 教授
福岡 孝則 (副委員長)	【学識経験者】	東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 准教授
三浦 詩乃	【学識経験者】	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 特任助教
細田 理栄子	【知識経験者】	独立行政法人都市再生機構 (令和3年度)
清原 裕幸	【知識経験者】	独立行政法人都市再生機構 (令和4年度)
渡邊 靖	【知識経験者】	東日本旅客鉄道株式会社 (令和3年度)
村上 祐二	【知識経験者】	東日本旅客鉄道株式会社 (令和4年度)
木村 亮介	【土地所有者】	株式会社キムラ建設
岩壁 勇	【公共的団体推薦】	寺分町内会 (令和2年度)
井澤 博敏	【公共的団体推薦】	寺分町内会 (令和3～4年度)
小團扇 勉	【公共的団体推薦】	梶原町内会
小島 信行	【公共的団体推薦】	上町屋町内会
小宮 健一	【市民】	公募市民
山村 哲郎	【市民】	公募市民

鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会 経緯表

令和2～4年度 鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会 経緯表

月	項目	検討内容等
令和2年度		
7月	【第1回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・鎌倉市長からの諮問について ・深沢地域整備事業の概要及びこれまでの検討経過 ・まちづくりガイドラインの策定について
10月	【第6回】庁内検討委員会	
11月	【第2回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン基本方針の素案について
1月	【第7回】庁内検討委員会	
1月	【第3回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン基本方針の最終案について
2月	基本方針の答申	

月	項目	検討内容等
令和3年度		
5月6日～ 6月4日	基本方針を踏まえたアイデア募集	
8月	【第4回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会の進め方について ・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドラインの検討について
10月	【第8回】庁内検討委員会	
10月	【第5回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドラインの全体構成について ・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドラインの検討について
1月	【第9回】庁内検討委員会	
3月	【第6回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・ワンヘルスとこれからのまちづくりについて ・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドラインの検討について
令和4年度		
5月	【第10回】庁内検討委員会	
5月	【第7回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドラインの検討について
7月	【第1回】ガイドライン検討部会	
8月	【第11回】庁内検討委員会	
8月	【第8回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドラインの検討について
10月	【第2回】ガイドライン検討部会	
10月	【第12回】庁内検討委員会	
11月	【第9回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	・鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン（素案）について
11月19日～ 11月30日	深沢地区まちづくりガイドラインに関する説明会 （大船、鎌倉、深沢、腰越、玉縄の5地区で各2回ずつ開催）	
11月24日～ 12月23日	パブリックコメントの閲覧及び意見募集	
1月	【第3回】ガイドライン検討部会	
1月	【第13回】庁内検討委員会	
2月	【第10回】鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会	

鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン

鎌倉市まちづくり計画部深沢地域整備課
鎌倉市御成町 18-10

